



**野原 恵子**  
議員  
(日本共産党  
幕別町議員団)

**問**

特別支援学校の在籍児童・生徒が急増し、高等養護学校へ受験する生徒が増え、高等学校における特別支援教育の推進と間口の確保が急務になっている。また、将来自立できる生徒の育成が求められる。

中札内高等養護学校では在籍者が急増し、幕別高校に分校が設置されることになった。今後普通高校である幕別高校と分校のあり方、分校への支援が必要である。道教育委員会の管轄ではあるが、福祉に関する町の将来を見据えた施策を持つべきである。

以下同。

- ① 分校卒業後の就職を確保する手立てと現在の知的障がい者の公共・民間での就労実績は。
- ② 卒業後の日常生活・社会生活を支援するため、ケアホーム・グループホームの設置を。
- ③ 普通高校と寄宿舎を伴った養護学校と、独立して設置していくよう道に求めていくこと。

**問**

高等養護学校教育について

まちづくりの中で、長期的な視点に立って議論が必要と思っている

**町長**

① 町内では24事業所で59の障がいのある人が就労しているが、知的障がい者の就労実態は不明である。障がいのある方の全ての方を対象として就労機会の掘り起こしを図り、地域での自立の支援に努めていきたい。

② 本年4月に設立された「社会福祉法人ひまわり」では、将来的にグループホームの運営も視野に入れていると聞いているので、グループホーム等の整備に向けて関係機関への働きかけに努めていきたい。

**教育長**

③ 寄宿舎までとはいかないものの、宿泊学習施設の整備を要請したが、道教委は、分校については通学型の学校として整備することから、寄宿舎を設置する考えは持っていないとの説明を受けている。

北海道の厳しい財政状況もあると思うが、今後も、宿泊学習施設など、機会をとらえた中で必要な要請を行っていきたい。

**問** 幕別町独自の奨学資金のあり方について

**答** 多くの方々の理解を得られる形で運用していきたい



幕別高等学校

**問**

経済的理由で就学困難な高等学校・国立高等専門学校に在籍する生徒に奨学金が支給されている。平成23年度から成績で支給対象を線引きしている。従来の基準に戻して支給していくこと。また、返済を伴う奨学資金を受けている生徒も対象にすること。

**教育長**

平成23年度の奨学資金選考委員会で、条例の本旨に基づき、学業優秀についての基準を設けることについて、了承を得たことから、成績を考慮することになった。条例の本旨に基づきながら、限られた財源の中で多くの方々の理解を得られる形で、本制度を運用していきたいと考えている。

返済を伴う奨学資金を受けている生徒も対象にすることについては、現在の給付水準でも年間で700万円余りの財源が必要となることから、町の厳しい財政状況を考えると難しいと考えている。

**再質問**

中札内では、卒業生の将来と福祉の町づくりを展望し、授産施設や更生施設を開設している。幕別でも分校の設置を契機に、福祉の視点を町づくりにいかしていくことが、障がいのある人の理解を深め誰もが安心して暮らしていくことにつながる。

**答** 将来の幕別のまちづくり、中札内に倣うところも大きいものと思う。そういう観点から、まちづくりの中で、長期的な視点に立って議論が必要と思っている。